



一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2016 7-8 月号

【平成28年度定期総会・会員総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

特別講演 運転支援システムの変遷

【ホットライン】

表彰者紹介

【新聞記事コーナー】

中日新聞、中部経済新聞

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

No.472

発行 一般社団法人名古屋工業会

(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



「ごきそ」電子化のお知らせ
裏表紙の裏をご覧ください。

徳川美術館 正面

大阪支部 平成28年度 地方部会開催について(ご案内)

(主催) 名古屋工業会大阪支部
支部長 木越正司 (C44)
(幹事) 滋賀部会 部会長 福永忠昭 (A46)
副部会長 伊藤俊明 (M45)

拝啓 皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。表題の件、今年度は滋賀部会が担当にて下記の通り開催することになりましたので、ご案内いたします。関西圏在住の方のみならず、多くの皆様のご参加をお待ちしております。 敬具

(サブテーマ) “万葉口マンの地「蒲生野」で、神様について学び、近江牛を味わう”

記

(開催要領)

1. 日時・集合場所：平成28年9月17日(土) 10:30 JR近江八幡駅改札口集合
2. 部会及び懇親会会場：
近江牛創作料理専門店「万葉太郎坊亭」電話0748-22-0329
四季折々の日本庭園を楽しめる「来て感動 見て感動 食して感動」の近江牛創作料理店
滋賀県東近江市小脇町654-1 (太郎坊宮内) <http://www.b-manyo.jp/store/store03.php>
3. 見学・参詣：勝運授福の神様「太郎坊宮」(正式名：阿賀神社)
 - 現在ではプロスポーツ選手を始め、第一線で活躍する企業経営者、政治家、職人、ビジネスマンなど、業種を越えた多くの方々が太郎坊宮の大神様のご利益を仰がれます。
 - 展望台からは、東近江市街から遙か鈴鹿の山々までを一望できます。近辺の平野は、古くは「蒲生野」と呼ばれ、古代王朝貴族の狩場であったといえます。『万葉集』の恋の相聞歌の舞台ともいわれます。
4. 当日スケジュール
10:30 JR近江八幡駅改札口集合(送迎バスにて太郎坊宮まで移動約30分)
11:00 太郎坊山中腹参集殿前駐車場到着→徒歩にて約50分太郎坊宮見学・参詣
参集殿にて松井佑一神主様から「太郎坊宮の由緒と神様」のお話を約15分、お聞かせいただきます。
参集殿出発→(表参道階段約240段登る)→本殿・展望台→(裏参道下山)→一願成就社→参集殿前→(表参道階段約300段下る)→成願寺→(階段約200段下る)→会場
(熱中症対策などは各人で対応願います。)
12:00～ 地方部会及び懇親会(2時間程度予定、閉会后JR近江八幡駅まで送迎バスにて移動)
5. 会費：当日徴収 会員5,000円(平成25年3月以降の卒業生及び学生は会費2,000円) 非会員6,000円
6. 参加申し込み方法
参加を希望される方は、8月17日(水)までに、下記の通りEメール、FAX又は官製ハガキにて福永忠昭まで申し込みをお願いします。会場などの都合で、先着30名様とさせていただきますのでご了承下さい。
 - ①氏名、学科、卒年、〒住所、電話番号(固定、携帯)、Eメールアドレス、現or元勤務先、送迎バス利用有無、その他連絡事項をご記入下さい。
 - ②福永忠昭Eメールアドレス：tadaaki_fukunaga@e-omi.ne.jp FAX：0748-55-0878
 - ③福永忠昭住所：〒529-1533 東近江市市子沖町215
7. 連絡先電話：福永忠昭 自宅0748-55-0878 (FAX兼用) 携帯090-2595-0399

表紙写真説明

「徳川美術館 正面」7/14(木)～9/11(日) 夏季特別展「信長・秀吉・家康」開催中

提供 徳川美術館

平成28年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会の平成28年度定期総会、理事会ならびに会員総会が5月21日(土)、中日パレスにおいて開催された。

定期総会には、理事長、副理事長、常務理事、理事、代議員等が出席し、内藤常務理事の司会で、水嶋理事長が開会挨拶の後、議長となり、議事録署名人を指名した。内藤常務理事が報告事項を説明した後、27年度事業報告及び収支決算案、28年度事業計画及び収支予算案、代議員、理事の選任について審議され、各議案とも原案どおり議決され、終了した。

その後の理事会には理事・監事が出席し、副理事長の選任と顧問の就任について審議し、副理事長に檀尾恒次氏、顧問に日比貞雄氏、大橋照男氏、小田征一郎氏の就任が議決され、終了した。

続いて開催された会員総会では、冒頭、27年度にご逝去された会員物故者86名のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

会員総会は内藤常務理事が司会となり、水嶋理事長の挨拶、鶴飼学長の会長挨拶の後、定期総会ならびに理事会で諮られ承認された決議事

項が報告された。

次に総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、母校退職職員に感謝状等、会員で卒業満70・60・50・40周年を迎えられた方への顕彰を行った。

続いて、川村信之(E53)の司会で、(株)豊田中央研究所リサーチアドバイザー浅野勝宏氏(E53)から「運転支援システムの変遷—過去の体験を通じて見える将来像」と題して特別講演をいただいた。

会場を移して開催された懇親パーティーでは、木越副理事長の司会で森副理事長の挨拶の後、檀尾副理事長の乾杯の発声で始まり、名古屋工業大学学生オーケストラによる演奏のなか、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。また、参加された卒業満60・50・40周年を迎えられました方からお一人ずつ簡単な自己紹介と近況報告があり、参加者全員が大いに盛り上がった。最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、加川副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

平成28年度 定期総会 次第

1. 議 事

(決議事項)

第1号議案 平成27年度事業報告及び収支決算案

第2号議案 平成28年度事業計画及び収支予算案

第3号議案 代議員の選任

第4号議案 役員を選任

(報告事項)

第5号議案 その他

平成28年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 一般社団法人名古屋工業会理事長 水嶋敏夫

2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長 鶴飼裕之

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事 イ 叙勲受章者に記念品贈呈 (5名)

ロ 名古屋工業大学定年退職職員への感謝状等贈呈 (12名)

ハ 名古屋工業大学卒業満70.60.50.40周年の会員への顕彰 (328名)

ニ 特別講演 講師:浅野勝宏氏 (E53) (株)豊田中央研究所 リサーチアドバイザー
演題:「運転支援システムの変遷—過去の体験を通じて見える将来像」

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 水嶋 敏夫 (M42)

一般社団法人 名古屋工業会 平成28年度会員総会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は全国からこのようにたくさんの会員の皆様にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

私が理事長を拝命して丸2年が経ちましたが、全学同窓会組織としての役割を果たし、工業会活動の2つの柱であります「大学支援」と「会員相互親睦」の諸施策を順調に進めることができているのも、会員の皆様の多大なご協力ならびに鶴飼学長はじめ大学教職員の皆様、関係各位のおかげと深く感謝申し上げます。

さて、会員総会に先立ちまして先ほど開催しました定期総会において、平成27年度事業報告および決算案ならびに平成28年度事業計画および予算案をご報告し承りました事をここに報告します。

決議事項の詳細はのちほど常務理事からご説明しますので、基本的な考え方について私からご説明したいと思います。

工業会は「耀く、ますます耀く母校」を願って、「大学支援」を事業目的の第一としております。このあと、鶴飼学長からもご紹介があると存じますが、本年は名工大変革の初年度であります。

「実践的工学エリート」育成をねらった学科の再編、6年一貫教育課程の新設等の諸施策が本格的にスタートする年ですので、我々としても大いに期待しているところです。

但し、改革の成果が出るのはまだ少し先の事になりますので、工業会としては産学連携の窓口である「名古屋工業大学研究協力会」とも連携しながら、支援の一層の充実をして参りたいと思います。

昨年の工業会活動を少し振り返ってみますと、何と言っても一番のイベントは11月に開催



した「第一回ホームカミングデー」です。

当日は、約250人ものOBの方近隣の方にご参加いただき、「工大祭」とも相まって賑やかに行われました。本日まで参加の方々の中にも、母校に足を運んで懐かしく思われた方、あるいは学生達の研究発表を聞いて頼もしく感じられた方もおみえになるのではないのでしょうか。

今年も11月3日、文化の日に「第二回ホームカミングデー」が開催されますが、ノーベル賞受賞者のロアルド・ホフマン氏の講演会、演劇会などの特別企画も計画されていますので、充分楽しんでいただけたらと思います。

今後はこの「ホームカミングデー」を工業会活動の一つの柱として盛り上げていきたいと考えておりますので、より多くの方が参加いただけるよう、周囲の同窓の方への声かけもよろしくお願ひします。

工業会の活動の第2の柱は「会員相互の親睦」です。具体的には、会員の皆さんへのサービス向上と相互親睦へのお手伝いができるよう、次のような取り組みを進めてきました。

昨年初めての取り組みとして、会員の方全員にカード形式の会員証を発行しました。

これは名古屋工業会への帰属意識を再認識して頂くことが第一のねらいでありまして、皆さんのお手元には既に届いていると思いますが、有効期限を5年とし、今後、住所等の会員情報の整備・更新にも活用して参りますので、ご協力をよろしくお願ひします。

この会員証を使って頂くことで、これまで徳

川美術館に同伴者1名を含めて無料入場できましたが、今年度より名古屋ポストン美術館にも会員ご本人は無料で入場して頂けるようになりました。

現在「ルノアール展」を開催していますが、これを機会に美術館通いをされたらいかがでしょうか。

その他、今年1月発行の会誌「ごきそ」に同封してお知らせした「上新電機」の特別優待や、「三井住友トラストロードサービスVISAゴールドカード」の年会費の優待割引等もありますので、是非ご活用下さい。

今後も会員にとってうれしい優待制度は、どんどん広げていきたいと思っておりますので、各支部でもご検討をお願いします。

一方で、現状のスマートホンの普及も踏まえ、工業会のホームページ画面を見やすいように改善し、大学の動きはもちろん、工業会各支部の活動や単科会の情報を掲載しておりますので、ぜひご覧頂きたいと思っております。

会誌「ごきそ」につきましては、昨年よりお話ししておりましたが、省資源と通信費削減の観点から、今年の後半より紙での配布をやめて会員専用ホームページでご覧頂くようにしたいと考えております。

電子化を進めるにあたっては、会員の皆様一人一人のご意向をお聞きする調査も行う予定ですが、趣旨をご理解の上、ご協力をよろしくお願い致します。

次に工業会の会員増強の件ですが、各支部が積極的に勧誘して下さったおかげで、この2年で約300人を超える卒業生が終身会員となり、会員数は1万3千人を超える規模になりました。

皆様のご努力に感謝致しますとともに、今後ともこの活動を根気よく続けていきたいと思います。

なお、今年3月に学部を卒業した大学生の90%以上は、入学時から既に工業会の会員であり、修士も含めると今年大学を卒業し、社会へ

出た工業会の会員数は約500人となります。

これから各支部の会員数は毎年確実に大きく増加していきます。

これは各支部においても、若返りを図る良いチャンスだと思いますので、若い人を巻き込んで、ますますの支部活動の活性化につなげて頂きたいと思っております。

さて、今年度の活動の重点でございますが、今年は、工業会創立101年にあたります。

次なる100年に向けて、工業会の永続的活動を実現させるため、「大学改革」をスタートさせた母校への支援を的確に実施すると同時に、全学同窓会としての基盤整備と会員サービスのさらなる充実を図っていきたく考えます。

そのためには、会員名簿の整備・保守方法の明確化、計画的な財政運営、工業会と単科会および卒業生連携室との連携の充実、工業会館の耐震化など、課題が山積しております。

本年はこれらの課題を明確にした上で、課題解決の下地をつくり上げる年にしたいと考えております。

皆様の積極的なご提言を頂きたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上のように、工業会の活動は「大学支援」と「会員相互親睦」を2本の柱として進めて参りますが、最後に、母校が行う名工大基金へのご協力についてお願いがあります。

国立大学法人である母校が、限りある予算の中で優秀な学生を輩出し続けるには、卒業生の皆さんからの直接的な支援も必要です。

あらゆる機会を捉え、名工大基金への寄付のご協力をお願い致します。

最後になりますが、本日は会員総会の後に豊田中央研究所 浅野様の特別講演、その後に懇親パーティーという企画をしております。

時間の許す限り親睦を深めて頂き、楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

会 長 挨拶

国立大学法人 名古屋工業大学 学長
一般社団法人 名古屋工業会 会長
鶴飼 裕之 (F52)

名古屋工業会会員総会の開催にあたり、母校、名古屋工業大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。名古屋工業会会員の皆様には、本学の教育研究活動にご理解、ご支援を賜り、まずは、厚くお礼申し上げます。とくに、学生の海外派遣事業、学生の修学ならびに課外活動への支援などで格別なご援助を頂き、重ねてお礼申し上げます。また、水嶋理事長をはじめ名古屋工業会役員の皆様には、常日頃より卒業生連携室、基金運営などの活動を通じて本学の事業運営を支えて頂いており、この場を借りて改めて深く感謝申し上げます。

さて、名古屋工業大学は、名古屋高等工業学校、愛知県立高等工業学校の創立以来、様々な変遷をたどりながら現在に至っています。昭和24年に新制国立大学としてスタートして以降は、わが国の高度成長と共に中京地域がものづくり拠点として発展するのに伴い、教育においても研究においてもわが国有数の工学系大学として屈指の規模を誇るまでに成長してまいりました。この間、時代の変遷に対応しながら新学科を創設、共通一次試験の導入などで入試制度を変更、また、ドクターコース設置によって大学院を重点化するなど、教育や研究においていくつかの節目がございました。その中でも、平成16年の国立大学法人化は最も大きな転換点でした。そして、今年には法人として第三期中期目標計画期間がスタートする節目の年です。これに先立ち、機能強化を目的とした教育改革を断行して学部と大学院を一体的に再編成し、また、6年一貫の新教育課程の設置を設置して、今年4月より新入生を迎えました。学問体系に基づきながら社会のニーズに柔軟に対応できる5つ



の学科・専攻では、各分野で高度な専門性を有する実践的な技術者・研究者を育成します。また、6年一貫の創造工学教育課程では、専門的な軸足をしっかりと築きながら、俯瞰的な視点と多様な価値観を併せ持ち、技術に新風を吹き込む創造的な人材を育成していきます。新しく迎えた学生が産業界、社会の期待に応える人材として巣立っていくのはもう少し先となります。先輩として彼らの成長を温かく見守って頂ければ幸いです。

さて、この教育改革については、これまでもいろいろな機会にお話ししており、配布資料にもございますので、本日は、「グローバル化」と「イノベーション創出」という観点から、本学の有する研究力の実力と研究機能強化に関する取り組みをご紹介します。

ここで、朝日新聞出版が発刊した国公立大学における様々なランキング情報（2017年版）から引用しながら、本学教員の実力の一部をご紹介します。

まず、研究論文の引用度、近年国際比較においてわが国の研究力が低下したと言われている主要因となっている指数ですが、トムソンロイターという機関の調査データを基にした論文引用度指数ランキング（2010年～2014年）では工学分野で28位、コンピュータ科学分野で13位、化学分野では22位という結果になっています。しかし、論文というのは複数の大学や機関の研究者との共著として発表されるのが多く、本学

教員の実力を知るには、論文への貢献度も調べる必要があります。その結果、興味深いことに、自前で獲得した引用獲得率では全国第1位、また、国内の共同研究によらない引用獲得率でも第2位という結果があります（2012年～2014年）。論文への貢献度において本学の教員が如何に高い実力を持っているかがわかります。研究には資金が必要です。そこで、コストパフォーマンスという観点から見ますと、正味引用1件当たりの研究費単価（運営費交付金と科研費）では下から6番目につけています。ちなみに教員一人当たりの運営費交付金配分額は調査した国立大学82大学中81位という位置にあり、本学教員の論文生産性が如何に高いかを表しています。

このようなデータを総合すると、本学の研究力を強化し、ランキングにおいても上位を目指すためには、他の大学、機関、とくに国外の著名大学との国際的共同研究を組織的に推進していくことが必要です。さらに、国プロ研究拠点の招致、大型競争的資金の獲得によって研究資金を充実させていくこと。これが学長としての役割と考えます。

そこで、昨年、「材料科学」と「情報科学」のフロンティア研究院という研究特区を設置し、これらを中核とした「エネルギー」「ライフ」「知能技術」などのイノベーション原動力の創出とグローバル人材の育成をアウトカムとする統合的研究体制を整備しました。この中で、外国の著名大学・研究機関から研究者を採用し、現在、20名を超える研究者が教員として共同で研究に従事するとともに、英語で授業を担当するよう教育においても活躍してもらっています。

もう一つの研究力の指標は、本学が得意とする産学官連携研究です。先ほどのランキング情報から引用すると、民間との共同研究受け入れ額において、研究者1000人未満の大学では本学は断トツの第1位です。

2500人未満においても第5位につけています。ちなみに本学の教員数は500名未満です。

今、企業のみならず大学においても開発競争が激化し、新しいイノベーションの創出が産学連携に期待されています。しかし、これまでのように、大学がシーズを提示し、企業が自らのニーズに基づいてマッチングしていく共同研究では、新たなイノベーションは難しくなっています。そこで、本学では、新しい産学連携モデルの形として、「知の価値」を提供する取り組みを始めました。大学と企業が一緒になって新たな価値を創造する将来ビジョンを創り、将来ありたい姿から現在の状況に向かう「バックキャスト」な方向から研究テーマを捉えていく、今日目指しているのはこのような新しい産学連携モデルです。具体的には、例えば愛知県西尾市周辺には自動車部品を中心としたものづくりの中小企業地域連携体の活動があります。しかし、昨今の産業構造の変化により、生産が縮小し将来に対する大きな不安があります。そこで、この4月から地域の連携基盤づくりのお手伝いを信金と組んで行っています。小さな一歩ですが、「知の価値」を提供してものづくりの拠点の活性化に貢献し、地域ビジネスエコシステム拠点を形成していくことを目指しています。

皆さんの後輩は、ロボコン、鳥人間コンテスト、ソーラーカーをはじめ様々な課外活動で活躍し、元気です。新講堂が7月に落成し、そのお披露目となるホームカミングデーを11月3日に予定しています。そこでは、ノーベル賞受賞者のロアルド・ホフマン先生をお招きし、彼の戯曲を上演するなど、技術だけでなく、名工大の文化も盛り上げようと考えています。

名古屋工業大学は、教育と研究の両輪を改革によってさらに勢いよく回転させ、グローバルステージへと踏み出してまいります。皆様のより一層のご支援、ご協力をお願いして、私のご挨拶とさせていただきます。

平成27年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

平成25年4月1日に一般社団法人へ移行し、定款に基づく公益目的事業である大学支援を的確に実施すると共に会員交流・会員優待制度の導入等同窓会としての諸事業を実施した。更に新入生に対する諸納金制度の導入により財政基盤の充実を図った。

2. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、学生の海外留学・派遣に対する支援の充実を図った。

- ① 学生の海外研鑽支援—学生32名
- ② 外国人留学生の支援—留学生3名

(2) 教育研究等支援

- ① 第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ② 教員の研究力向上に資するため名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ③ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ④ 理事長及び常務理事が名古屋工業大学基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ⑤ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行なった。
- ⑥ 名古屋工業大学の定年退職教職6名に、会員総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。(再掲)
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成28年3月23日の学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生19名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念品を贈呈した。
- ③ 前期入試における各学科の最優秀者7名に対し、平成27年4月6日の入学式において、工業会特別奨学金を授与した。
- ④ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ⑤ 挑戦的課外活動活性化奨励金として、ワールドソーラーチャレンジ in オーストラリア、鳥人間コンテスト等に重点的に課外活動奨励金、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑥ 平成27年3月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑦ 学生の就職支援の一環として、OBの企業トップによるセミナーおよびOB講演会を開催した。
- ⑧ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。
- ⑨ 新入生の保護者に工業会の学生支援等の説明を行うと共に、在学生の保護者に大学情報等の提供のため、会誌を送付した。

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

①OB 未入会者への勧誘

- 1) OB 入会率向上のため、卒業後経過年数による終身会費割引制度を改訂した。
- 2) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 3) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 4) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 5) 本年度新規入会者 ()は前年度実績

終身会員 66(244)名、 年度会員 32(13)名、 合計 98(257)名

②新入学生への勧誘

新規入会者

一括納付による終身会員 980(955)名、 4年累計 3,964名

③在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。
 - 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。
- ④平成 27 年度末、対象者 61,118(60,085)名、会員 13,172(13,004)、OB 会員入会率； 21.6(21.6)%
会員の内訳 終身会員 10,279(9,924)名、年度会員 2,893(3,080)名

(2) 活性化活動

①会員交流および広報活動

- 1) 会誌「ごきそ」を隔月刊行し会員に送付した。更に、3・4月号は新入生に、5・6月号は在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- 2) 会員証を発行すると共に会員優待制度を充実・拡大し、ホームページ等により会員に広報・周知を行った。
- 3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備について、卒業生連携室の協力を得て検討を行った。

②支部活動

- 1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
- 2) 支部長会議を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

③単科会との連携

- 1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④講演会の開催

- 1) 会員総会後に特別学術講演会を開催した。

講師： 塩見 正直氏 トヨタ自動車(株) 元常務取締役・トヨタ車体(株) 元取締役会長
演題：『サステイナブル・モビリティの実現に向けて』

⑤記念品の贈呈

- 1) 平成 26 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、会員総会で記念品を贈呈した。
丸野 重雄 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授
三井 淳藏 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授
- 2) 卒業満 70, 60, 50, 40 周年に該当する会員に、会員総会にて記念品を贈呈した。
70 年－昭和 20 年卒 51 名、60 年－昭和 30 年卒 53 名 50 年－昭和 40 年卒 133 名
40 年－昭和 50 年卒 73 名

平成27年度収支決算書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	6,056,136	6,862,000	△ 805,864
(1) 財産利子収入	2,300,356	2,340,000	△ 39,644
(2) 会誌広告収入	601,000	610,000	△ 9,000
(3) オフィス賃貸収入	2,235,780	3,000,000	△ 764,220
(4) 駐車場賃貸収入	914,000	912,000	2,000
(5) 寄附金収入	5,000	0	5,000
2) 入会金, 会費収入	86,959,000	86,040,000	919,000
(1) 入会金収入	164,000	84,000	80,000
(2) 年度会費収入	6,182,000	5,816,000	366,000
(3) 終身会費収入	80,483,000	80,000,000	483,000
(4) 賛助会費収入	130,000	140,000	△ 10,000
3) 雑収入	43,389	38,000	5,389
(1) 雑収入	43,389	38,000	5,389
4) 積立預金取崩収入	146,772	2,500,000	△ 2,353,228
(1) 減価償却積立預金取崩収入	146,772	2,500,000	△ 2,353,228
5) 前期繰越収支差額	10,835,144	10,835,144	0
(1) 前期繰越収支差額	10,835,144	10,835,144	0
収入の部合計	104,040,441	106,275,144	△ 2,234,703

注1

※ 平成27年度借入限度額及び債務負担額についての該当事項はありません。

注1 年度途中での賃貸契約の解約

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	86,662,962	83,887,000	2,775,962
(1) 大学支援事業	47,541,256	47,870,000	△ 328,744
ア 教育研究支援	6,893,484	7,530,000	△ 636,516
イ 学生支援	39,269,077	38,840,000	429,077
ウ その他支援	1,378,695	1,500,000	△ 121,305
(2) 工業会の充実のための事業	35,771,391	32,510,000	3,261,391
ア 会員増強活動	5,773,699	1,760,000	4,013,699
イ 広報活動	16,441,833	16,800,000	△ 358,167
ウ 支部活動	12,251,448	12,010,000	241,448
エ 会員慶弔	1,127,363	1,780,000	△ 652,637
オ 講演会	177,048	160,000	17,048
(3) 収益事業	3,350,315	3,507,000	△ 156,685
ア オフィス賃貸	2,832,929	3,067,000	△ 234,071
イ 駐車場賃貸	517,386	440,000	77,386
2) 管理費	9,717,005	10,103,000	△ 385,995
(1) 総会経費	2,333,811	2,500,000	△ 166,189
(2) 管理諸経費	7,383,194	7,603,000	△ 219,806
3) 固定資産取得支出	146,772	2,500,000	△ 2,353,228
(1) 固定資産取得支出	146,772	2,500,000	△ 2,353,228
4) 次期繰越収支差額	7,513,702	9,785,144	△ 2,271,442
(1) 次期繰越収支差額	7,513,702	9,785,144	△ 2,271,442
支出の部合計	104,040,441	106,275,144	△ 2,234,703

注1

注1 会員証の発行、クオカードの発行、オリジナル切手の作製

正味財産増減計算の部

(1) 増加の部

平成28年3月31日

(単位:円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	7,513,702	
	建物付属設備増加額	0	
	什器備品増加額	146,772	
	減価償却積立預金増加額	2,567,117	
	退職給与引当預金増加額	300,000	
負債の減少	退職給与引当金減少額	3,923,809	
	受入保証金減少額	33,000	
増加額合計		14,484,400	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	10,835,144	
	建物償却費	1,537,525	
	建物付属設備償却費	359,601	
	什器備品償却費	669,991	
	減価償却積立預金減少額	146,772	
	退職給与引当預金減少額	3,923,809	
	受入保証金減少額	33,000	
負債の増加	退職給与引当金増加額	300,000	
減少額合計		17,805,842	
当期正味財産増減額		△ 3,321,442	
前期繰越正味財産額		321,509,208	
期末正味財産合計額		318,187,766	

貸借対照表

平成28年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	445,130	300,573	144,557
預金	73,566,244	68,268,827	5,297,417
流動資産合計 (A)	74,011,374	68,569,400	5,441,974
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
調査研究助成積立預金	22,534,377	22,534,377	0
退職給与引当預金	3,395,191	7,019,000	△ 3,623,809
減価償却積立預金	60,432,633	58,012,288	2,420,345
特定資産合計 (B)	86,362,201	87,565,665	△ 1,203,464
(2) その他固定資産			
土地	26,150,730	26,150,730	0
建物	32,679,101	34,216,626	△ 1,537,525
建物付属設備	2,130,725	2,490,326	△ 359,601
什器備品	2,464,894	2,988,113	△ 523,219
投資有価証券	97,884,372	106,680,788	△ 8,796,416
差入保証金	150,000	150,000	0
その他固定資産合計 (C)	161,459,822	172,676,583	△ 11,216,761
固定資産合計 (D)=(B)+(C)	247,822,023	260,242,248	△ 12,420,225
資産合計 (E)=(A)+(D)	321,833,397	328,811,648	△ 6,978,251
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
受入保証金	250,440	283,440	△ 33,000
退職給与引当金	3,395,191	7,019,000	△ 3,623,809
固定負債合計 (G)	3,645,631	7,302,440	△ 3,656,809
負債合計 (H)	3,645,631	7,302,440	△ 3,656,809
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計 (I)	318,187,766	321,509,208	△ 3,321,442
負債及び正味財産合計 (J) = (H) + (I)	321,833,397	328,811,648	△ 6,978,251

財 産 目 録

平成28年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I. 流動資産		
1. 現金	445,130	
2. 普通預金(三菱東京UFJ銀行)	18,579,297	
3. 当座預金(ゆうちょ銀行)	4,880,824	
4. 定期預金(大和ネクスト銀行等)	50,106,123	
流動資産合計	74,011,374	74,011,374
II. 固定資産		
1. 特定資産		
(1) 愛知県公債 (野村証券)	22,534,377	
(2) 国 債 (野村証券)	63,827,824	
特定資産合計	86,362,201	86,362,201
2. その他の固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 建物 会館鉄筋5階建延646.88 m ²	32,679,101	
(3) 建物附属設備	2,130,725	
(4) 什器備品	2,464,894	
(5) 国 債 (野村証券)	36,172,176	
(6) 大阪府公債 (野村証券)	20,000,000	
(7) 大阪府公債 (野村証券)	10,000,000	
(8) 愛知県公債 (野村証券)	1,465,623	
(9) なごやか市民債 (野村証券)	30,000,000	
(10) 金銭信託(大和証券等)	246,573	
(11) 差入保証金 (セコム・八重洲倶楽部)	150,000	
その他の固定資産合計	161,459,822	161,459,822
固定資産合計	247,822,023	247,822,023
資 産 合 計	321,833,397	321,833,397
(負債の部)		
I. 流動負債		
流動負債	0	
流動負債合計	0	0
II. 固定負債		
受入保証金	250,440	
退職給与引当金	3,395,191	
固定負債合計		3,645,631
負債合計		3,645,631
正味財産		318,187,766

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水嶋敏夫 殿

平成27年4月1日から平成28年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成28年4月14日

一般社団法人 名古屋工業会

監事 清水益文 

監事 安藤正晴 

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益目的支出計画実施報告書に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を開覧し、法人事業所において公益目的支出計画の実施の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検証しました。

2 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

平成 28 年 4 月 14 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事 清水益文 

監事 安藤正晴 

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【27 年度(平成27年4月1日 から平成28年3月31日 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	345,398,646円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	137,772,186円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	90,368,584円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	47,541,256円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	137,654円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	207,626,460円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成33年3月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円
公益目的収支差額	91,638,188円	90,368,584円	137,457,282円	137,772,186円	183,276,376円
公益目的支出の額	45,961,060円	46,247,874円	45,961,060円	47,541,256円	45,961,060円
実施事業収入の額	141,966円	141,966円	141,966円	137,654円	141,966円
公益目的財産残額	253,760,458円	255,030,062円	207,941,364円	207,626,460円	162,122,270円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。